

みなさんにお伝えしたいことがあります。今から30年前の1995年の今日1月17日午前5時46分に兵庫県の淡路島北部を震源としたマグニチュード7.3の地震が発生しました。この地震を兵庫県南部地震といい、この地震により発生した災害を阪神・淡路大震災とよびます。

この大震災による死者は6434人、負傷者4万3792人、全半壊した住宅は25万棟にものぼります。

この地震では今まで予想もしていなかった被害が発生したことや大都市周辺で発生したことなどから、今後の地震への備えについて多くの教訓を私たちに与えてくれました。また、震災後の人々の助け合いや各地域の復興のようすは、私たちに「きずな・支えあう心」「やさしさ・思いやり」の大切さを今でも教えてくれています。

被害を受けた各地で追悼行事が行われ、神戸市中央区の公園では、犠牲者を悼む灯籠が「1.17」や「よりそう」という文字のかたちに並べられています。「よりそう」という文字には、震災を経験した人が少なくなっても被災者を忘れず寄り添い続けようとの思いや、この30年の間に起きた東日本大震災や能登半島地震の被災者も支えていこうとの思いが込められています。

震災は他人ごとではありません。今後30年以内に南海トラフ地震の発生確率が80%程度に引き上げられるなど、私たちの身のまわりでも大きな災害が予想されています。私たちも、いつ災害が起きても対応できるように準備する必要があります。

私たちも、震災でお亡くなりになられた方を追悼するとともに、震災で培われた「きずな・支えあう心」「やさしさ・思いやり」の大切さを風化させないようにしていきたいと思えます。